

若者支援の現状と課題について

講師 ちた地域若者サポートステーション
センター長 山田 学 氏

◆ちた地域若者サポートステーションとは

・就職に向けての悩みや不安などを、国家資格 キャリアコンサルタントを持った相談員が相談者と最適なプランを共に考える。個別相談をベースにサポートし、4 年目となる。利用者の平均年齢は 28 歳、サポステの支援だけで進路決定が難しいと判断した場合は、より適切な支援機関を紹介するなど、個々に合わせた支援を行っている。

◆NPO法人 ICDS 創立：平成 17 年 5 月、従業員数：49 名

・厚生労働省から委託（2000 万円）を受け、名古屋（13 年目）、知多（4 年目）、岐阜（12 年目）の 3 か所で活動している。

◆若者を取り巻く現状

・フリーター、若年無業者の推移として、2015 年フリーターは前年度差 12 万人減の 167 万人、若年無業者は前年と同水準で 56 万人となっている。利用者の夢や理想が多い、やりたいこと、つきたい仕事がないという若者もいる。

◆昨今の若者について感じること

- ①採用される若者とされない若者がはっきり分かれる。
- ②無業状態の高年齢化によって、次年度は 40 代もサポステの対象年齢にしていく。
- ③女性の再就職の相談が増えている。
- ④コミュニケーション能力の問題なのか、聞く力、伝える力の低下か、感情の希薄さなのか？または、社会が勝手に問題視しているだけの可能性も考えられる。そもそも現在の就職は求められるものが多すぎる。また、若い人も就職の条件を高く求めすぎていないか？
- ⑤発達障害や精神疾患など切ることの出来ない視点があり、支援が長期にわたる。

◆課題

- ・単年度事業であること
- ・他機関や企業との関わりが一時的に
- ・心理専門職が設置できていない
- ・知多半島のニーズが把握できていない

◆所感

- ・自立のための就労支援であるものの、心理的、家庭環境、発達障害などの福祉的要素も大きいことを再認識した。個々の努力だけでは解決できない事例もあり、行政の役割が大きいと感じた。
- ・サポステで、様々な相談を受けても、支援する機関が充実していないとのこと。特に障がいや精神疾患を持った若者への支援機関が少ないという課題は行政が整えていくべきではないかと感じた。
- ・障がい者の早期療育の必要性、また、教育機関との連携が図れていない課題をクリアするため、小中学校のカウンセラーに、臨床心理士も設置していく必要性を感じた。
- ・大府市として中学校卒業してから高校・大学を中退し、支援機関につながない若者をまずは小中学校の教育の現場や地域とつながっている行政が把握していく仕組みづくりが必要である。